
青春のカケラ

285

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青春のカケラ

【Nコード】

N1373B

【作者名】

285

【あらすじ】

285の愉快的な高校生活が始まるうとしている。

第0章 全日制単位制

県で一つの^{ニューシステムスクール}全日制単位制高校、MD高校¹。県で一つの^{ニューシステム}全日制単位制^{テム}だけあってよくわからないという不安があった¹。少なくとも彼だけではないだろうが¹。ところで彼とは・・・、このMD高校を受験して合格し、はれて入学式を迎える受験番号285とっておこう¹。

彼は白亜の校舎を見ている。そして自分の学校生活も白亜のノートに書かれていくことを思い、無意識に歩き始めた。

入学式は音楽部の演奏に始まった。

演奏された曲に自分の伝説の始まりを感じた。

入学式も終わり、教室に移動した。

彼は1組だった。

1組4番は窓側の席だった。周りを見渡すと・・・当然知らない人ばかりだった。せめての救いはユウが同じクラスにいたことである。ユウとは中学校は違ったが、同じ塾で知り合い仲良くなった。

組担任は長谷川、学年主事はNOW任、あとetcなスタッフで285たち240人の生徒が始動し始めた。授業は春休みに決めた全日制単位制ならではの個人個人の時間割によつて進められる。といつても1年次の間はみんなほとんど時間割は同じだが¹。

それはさておき、5月くらいになつて1組みんなの自己紹介が行なわれた。みんなのこのことを知ることのできるチャンスだったが、285はほとんど寝ていた・・・。そのせいか自分の番の時、自己紹介する内容を忘れてしまい恥ずかしかった。ま、みんなは笑っていたことだしいいか、と自分を納得させた。ところで一人元気がいいのがいた。

「こいつ、本当に高校生か。」

と思わせるほどの童顔がどこかおかしい、タクヤという男子生徒だ。以前に下に兄弟がいると言っていたが、それで兄が勤まるのかとい

わんばかりの童顔だった。・・・
以前に？285はタクヤとは違う学校だったのに、どうしてこのよ
うなことが言えるのか・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1373b/>

青春のカケラ

2011年1月26日05時56分発行